

# いの町 菊池学園だより (第25号)

いの町では、町立小中学校の臨時休業を5月18日から解除し、段階的に学校生活を再開してきました。想定外の長期休業は、子どもさんはもちろんですが、保護者さんや地域や先生にも様々な影響が及んでいると思います。

今年度から菊池学園の取組は、「ぷっくりハート育成推進事業」の教育分野における取組として続けていきます。今年度1回目の菊池学園事業担当者会を5月28日に開催しました。現状を踏まえ、初めてテレビ会議システムを活用したオンラインで開催しました。下の写真はその時のパソコンの画面です。



各校の担当の先生と、会議の運営スタッフとして教育委員会事務局から5名と教育研究所2名を加えて、合計19名で行いました。

4~5人で2回のグループ協議を行いました。1回目のテーマは、前号(24号)の菊池学園だよりでお伝えした「つながり」のある「安心」できる学級づくりについてです。

協議に入る前に、今回の臨時休業中、学校や先生との「つながり」が持てないことを不安に感じていた、ある保護者さんの思いをお伝えしました。その後、NPO法人 Your school 理事 副島賢和先生の動画【風のたより】その1-3「ねがい」\*1を視聴して、グループ協議を行いました。各グループで発表された休業期間中に行ったことと、再開後に行っていることの一部を紹介します。

## ○休業期間中

- ・1週間に1回程度の家庭訪問を実施。(小学校)
- ・家庭訪問は1回目は教員全員が分かれて実施。2回目は半分の教員が別れて実施。(小学校)
- ・低学年の多くは学童等で学校に来ていたので、午後、教員も課題を一緒にみている。高学年で来ていない児童については、毎日1回は声を聞くために電話をした。(小学校)
- ・担任、学年主任、副担任で週1回程度出来るだけ会える時間帯に家庭訪問を実施。(門より中には入らない。保護者や生徒と会うときも1~2m以上離れて。)(中学校)
- ・担任、副担任が課題を各家庭に届けた。その際、メッセージをつけて、本人と保護者に渡した。(中学校)

# いの町 菊池学園だより (第25号)

## ○再開後

- ・再開後、マメに学級通信を発行する、いい所を貼る木やキャラクターを完成させるなどの細かいところまで目配りした取組をしている。(小学校)
- ・学習のルールづくり。安心して勉強できる雰囲気づくり。具体的には、授業中の隙間時間に読書をさせ、「シーン」となる時間を体験させている。(小学校)
- ・成長ノートを活用。生徒の今日の振り返りへのコメントで、深いつながりや安心感を持たせるようにしている。(中学校)
- ・体育館で対話的な授業につながる力をつけるために、全生徒を集めて縦割り班で、聞くことに関する話し合いを実施。(中学校)
- ・学校全体でコロナの授業を実施。感謝する取組として、保護者や先輩に手紙を書く取組を実施。(中学校)

2つ目のテーマは、「対話的な授業」をどう行っていくかでした。協議前に、教育研

究所の石川正康先生から「このような状況においても、部分的にも（対話的な授業に）正対して取り組んでもらいたい。新しい感染症時代において、新しい授業様式を各校で手作りしていく。ハード面、ソフト面において。教育研究所としては、各校と取組について情報交換しながら、町として共有していきたい。」とお話をしていたら、グループに分かれて協議をしました。グループで出た意見の一部を紹介します。

- ・直接的な対話が難しいので、自分の意見を書いたノートを机の上に置いて、他の人のノートを自由に見に回り、どうだったかを全体共有する授業。(小学校)
- ・友だち同士で話し合うことはできないが、学び合いの時間は大切にしたい。ホワイトボードに自分の考えを書き出し掲示して説明する形で、一人の学びを全体で共有する。(小学校)
- ・生徒が考えたことを黒板に（先生が）書いて、全体で意見の共有を図っている。近くにならない程度で意見交換はさせている。(中学校)
- ・マスクなどの感染防止対策をしたうえで、個人思考をして同じテーブルの少人数で話をする。その後、立ち歩きをして自分の意見や自分のグループの意見を伝え合う。(中学校)

今回、教育委員会主催としては初めてのオンライン会議でした。開催するまでにトラブルもありましたが、先生方は前向きにとらえて参加してくださいました。事後アンケートでは、「広いいの町でも、移動時間なしでぎりぎりまで授業もでき、すぐ会議や研修に臨めるので、大変ありがたいと思いました。動画や資料も効果的に共有できるのもいいと思います。小グループでの会議も話しやすく、自分なりに主体的に取り組めた…」との意見がありました。また、このシステムを活用したアイデアとして「ほかの学年との交流ができなくなっているので、学習したことの発表をオンラインで他学年に見てもらおう」との意見もありました。反対に「近くに人がいないのは寂しい。今回のような緊急事態でなければ、研修会は、やっぱり人と人の関わりの中で、実施することが望ましいのではないかと思います。」との意見もありました。

このような状況だからこそ、新しい手段や手法も活用しながら、学校だからできる教育を充実させていく大切さを改めて感じた時間でした。これからも各学校の実践を共有しながら、この取組を進めていきます。